

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生

『生徒行動目標』 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	スローガン「みんなで学び合い、高め合っていく十二中生！」～対話や協働を通じて、ポジティブな行動を目指そう～ ○基礎学力の定着と向上を目指した「分かる授業・魅力ある授業」を実践する学校 ○自己肯定感を高め、社会に参画する力を育成する学校 ○豊かな心と健やかな体を育成する学校 ○学校情報を発信し、保護者・地域の人々と協働しながら教育を推進していく学校
○児童・生徒像	○学ぶ意欲と向上心をもち、生涯にわたって逆境に負けず、前向きに生きようとする生徒 ○自己肯定感を高め、地域・社会に貢献できる力をもつ生徒 ○思いやりの心、命を大切にする心など豊かな心と健やかな体をもつ生徒
○教師像	○「分かる授業・魅力ある授業」を目指して研修に努め、授業改善を図っていく教師 ○生徒に「考え、学び合い、話し合い、発表する」活動を通して、主体性を育んでいく教師 ○生徒一人一人の個性や多様性を把握し、豊かな心と体を育んでいく教師 ○「地域にある学校」を意識し、地域や保護者と連携しながら生徒の社会的自立に必要な力を育んでいく教師 ○教育公務員として使命と責任を自覚して、情熱をもって職務に努める教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校〉

現状：教師・生徒の信頼関係を築きながら、きめ細かく丁寧な指導を行っており、落ち着いた環境である。

学校行事や学年行事、生徒会・委員会活動、ボランティア活動には、生徒が積極的に取り組んでいる。

成果：ICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業研究・授業改善に取り組んでいる。

各種コンテストに向けた朝学習での取り組みや単元・小テストを通して基礎学力の向上と達成感を図っている。

思いやりや規範意識、母校を大切にする心、集会での「聴く姿勢」が高い。

特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への支援策について、外部機関と連携しながら組織的に対応することができている。

課題：①基礎学力の確実な定着と向上

②ICTを効果的に活用し、生徒が主体的に「考え、学び合い、話し合い、発表する」授業の実践

③自己肯定感を高め、主体的に行動できる生徒の育成

③特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への対応（SSRとの連携）

〈生徒〉

現状：明るく素直で、学校行事や生徒会・委員会活動、美化活動、ボランティア活動によく取り組んでいる。全体として、授業に臨む姿勢もよい。

「今の学級をよりよい学級にしたいと思う」「学級みんなはお互いに協力し助け合っていた」の回答が9割を超える一方で、「自ら行動しよう」「授業中挙手や発言を積極的にした」の回答は5割弱と低い。考え、表現する力は少しずつついてきているが、自信がない。

成果：「十二中でよかった」という生徒が81%。全体として落ち着いた授業が展開でき、生徒間のトラブルも減少している。

- 課題：①学習の必要性を認識して、基礎学力の定着・向上に努める
 ②生徒自らが考え、学び合い、ポジティブに行動する力の育成
 ③粘り強く取り組み、困難を乗り越える力の育成

〈教師〉

現状：若手教師が2/3以上で活気はあるが、経験不足の面がある。生徒・保護者に寄り添って指導している姿が多く見られる。

成果：ICTの活用、校内研究授業、年次成果発表授業、小中連携研究授業等に取り組み、授業改善の意識が高まっている。

大仙市派遣教員還元授業、教師道場教員道徳授業により生徒主体の授業改善意識が高まっている。

- 課題：①基礎学力の定着と向上 下位層の底上げ
 ②ICTや学校図書館を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善
 ③キャリア教育の視点、SWPBSの視点を重視した教育活動の展開
 ④SSR運営に対して、学校全体の共通理解と組織的対応

〈保護者・地域〉

現状：保護者（PTA・オヤジの会）や開かれた学校づくり協議会委員、地域の方々は創立以来本校に愛着があり、協力・支援体制が強い。運動会でのテント貸し出しや校内地域清掃での焼きそば提供など全面的な協力体制がある。

成果：PTA、開かれた学校づくり協議会による朝の挨拶運動は生徒の週番活動とともに実施できた。また、開かれた学校づくり協議会を定期的に開催し、教員との意見交換会や保護者参加の講演会も実施できた。12月には3年生面接練習をサポートしていただいた。

- 課題：①学校、PTA、開かれた学校づくり協議会との連携を図りながら、地域に根ざした学校をつくる。
 ②保護者の皆様に、学校公開や学校の様子を随時発信し、ご理解とご協力を頂けるような教育活動を展開していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と社会的自立心の確立	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上と信頼される学校作り	○	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
------------	--------------

A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
生徒の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力向上を図る		年度末到達度確認テスト正答率 51% 令和7年度区調査通過率 58%		令和7年度正答率60.3% 令和7年度通過率63.4%		目標値は達成できたが、1年の国数英は平均以下のため、学力向上を図る。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
	1 継続	授業の充実	全学年 全教科	年間を 通して	【指導体制】研究推進委員会で企画運営【取り組みのねらい・目的】 ・年1回以上の研究授業時にICT機器を効果的に活用し、生徒主体の授業を公開する。ICT研究推進委員会と連携し、モデル授業を実施する。 ・校内研修会を実施する。管理職・教員同士の授業観察年3回実施する。「めあて」「振り返り」を明確にした授業展開の統一化を図る。 ・学校図書館を年1回は教科や総合学習で活用する。	一人1回研究授業、ICT研究推進委員のモデル授業の実施回数 授業観察シート 授業で学校図書館を活用した回数 「調べる学習コンクール」 応募数	・全教員が1回以上ICT機器を効果的に活用し、生徒主体の研究授業を実施する。 ・ICT研究推進委員のモデル授業の実施(5教科代表) ・授業観察シート提出率 90% ・授業で学校図書館を活用した回数 10回以上 「調べる学習コンクール」 応募数 30	・全教員が1回以上ICT機器を効果的に活用した生徒主体の研究授業を実施 100% ・GIGAスクール推進委員のモデル授業として校内研修会を年3回、公開研究授業1回実施。 第1回はICT推進委員による5教科モデル授業を実施。 ・授業観察シート提出率 86% ・授業での学校図書館利用 3回 ・応募数90 提出 2	・全教員が研究授業を実施。ICT推進委員を中心に5グループに分け、授業観察を年3回実施。グループ内で授業観察、ICTの活用方法について教え合いを行い、活用が活発化した。 ・生徒アンケート 「先生は一人一台タブレットを活用している」の回答93% ・学校図書館の利用率を学校司書と連携して上げていく。

2 新規	朝学習(10分)	全学年 5教科	各教科 2週間 を1ク ールと して実 施	<p>【指導体制】教科担任、学年所属教員【取り組みのねらい・目的】・区学力調査の分析より各教科定着が低い内容を演習し、最終日に「確認テスト」「振り返り」を実施する。 ・基準をクリアできない生徒に対して補充教室(JUT)を実施する。 【使用教材】プリント教材・AIドリル</p>	5教科確認テスト(各3回)による合格率	<p>5教科確認テストによる合格率 80%</p> <p>JUT対象生徒のクリア賞 80%</p> <p>定期考査、単元テスト、小テストで基礎・基本問題の習得</p>	<p>各教科2回実施 合格率(%)</p> <p>数学 1年①72 ②89 2年①73②68 3年①46②50</p> <p>英語 1年①84②91 2年①69②45 3年①79②42</p> <p>国語 1年①34②68 2年①97 3年①87</p> <p>社会 1年①52 2年①63 3年①63</p> <p>理科 1年①80②67 2年①83②87 3年①60②70</p>	<p>・全学年5教科 各教科2週間を1クールとして15回実施。各教科定着が低い内容を演習し最終日に確認テスト、振り返りを実施できた。</p>	○
3 継続	放課後補充教室(JUT)	全学年 5教科 CD層対 象	放課後 20分 各教科 2週間 を1ク ールと して実 施	<p>【指導体制】教科担任、学年所属教員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】・各教科内容の定着が不十分な生徒に対して指導する。 ・各教科「確認テスト」を実施し、基準をクリアできない生徒に対して補充を行い、再度確認テストを行う。(クリア賞)</p> <p>【使用教材】プリント教材・AIドリル</p>	5教科確認テスト(各3回)による合格率 JUTクリア賞 80%	<p>JUT対象生徒 クリア賞 80%</p> <p>5教科確認テスト合格率 30%</p> <p>定期考査、単元テスト、小テストで基礎・基本問題の習得</p>	<p>各教科で合格できなかった生徒に対して再テストを2回以上実施し、合格率を上げた。 合格率 33%</p> <p>2年数学は4回再テストを実施。</p>	<p>・生徒アンケート「朝学習確認テストで目標とする点が取れている」の回答 68.5%</p> <p>・朝学習で基本的な問題を習得させるために確認テストを5教科で実施できたことはよかった。CD層の合格率が低いことが課題である。</p>	△

4 継続	家庭学習	全生徒 全教科	毎日 (土、日 も含む)	【指導体制】学年所属職員【取り組みのねらい・目的】各教科よりノート・AIドリルを活用した家庭学習の方法を指導する。 【使用教材】教科書・プリント・AIドリル	AIドリル活用状況を学年体制で確認する。	活用率の低い生徒に対しては、各担任を中心に個別指導を行う。	授業以外に長期休業中に課題として5教科で出題 AIドリルの活用率 月平均 65% 月回答数 504問	生徒アンケート「苦手な問題を解けるように家庭学習や授業でAIドリルをよく使っている」の回答32% 活用するだけでなく、理解することが課題がある。	△
---------	------	------------	--------------------	---	----------------------	-------------------------------	---	--	---

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成と社会的自立心の確立			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒自らよりよい学校づくりに参画し、「学校生活が楽しく安心できる学校」「他人を尊重し、いじめのない学校」をつくる		アンケートで「十二中の生徒でよかったと思う」と90%以上の生徒が回答する。	生徒アンケート回答 80.6%	「楽しく、安心して学校生活を送っている」88% 今後も自己肯定感を持たせていく。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の涵養	・WebQUの学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の設問No.8、16、21、22、23の肯定的な回答がいずれも70%以上 ・ポジティブな行動マトリクスの「自ら行動しよう」70%以上	・キャリア教育年間指導計画と夢デザインシートをリンクさせた計画・振り返りを実施。 ・SWPBSのポジティブな行動マトリクスを各教室に掲示し、生徒に意識化させる。 ・学校スローガンを掲げ、講話や学年集会で意識化させる。	No.8 自分の学習方法がある 80.5% No.16 クラスに貢献している 78.5% No.21～23 友人やクラスの中で頼りにされている。 72% ・「自ら行動しよう」74.7% ・「みんなで学び合い、高め合っていく十二中生」のスローガンを実行している 77.9%	生徒総会での意見交換、各委員会での工夫のある取り組み等、SWPBSを意識して生徒の主体的な活動が増えた。今後も自分たちの力で学校をよくする意識をもたせ、具体的に相手に活動内容伝え、活動する場を増やしていく。	○

<p>居心地のよい学級作り</p> <p>人権への配慮と豊かな心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> WebQUにおける侵害行為認知群、各学年とも15%以下 学級不満足群20%以下 学級満足度50%以上 WebQUにおける『学習意欲』に関する設問の70%以上 生徒アンケート「学級での居心地がよいと感じている」85%以上 「他人を尊重し、いじめのない学校生活を送っている」と、生徒の回答80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> WebQU やいじめアンケートでのいじめの早期発見に努め、「いじめ防止対策委員会」を中心に組織的に対応する。 学級活動を通して、生徒が互いに学び合う関係を構築し、どの生徒も意欲的に学習に取り組めるようにする。 生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手で安心・安全な環境をつくる態度を育てる。 道徳の授業、生命の安全教育、校長講話など「心の教育」「人権について考える教育」を全教育活動で推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> WebQUにおける侵害行為認知群、各学年 17.1% 学級不満足群 各学年14.7% 学級満足度56% WebQUにおける『学習意欲』に関する設問 76% 生徒アンケート「学級での居心地がよい」の回答82.3% 「他人を尊重し、いじめのない学校生活を送っている」97.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導部会やいじめ防止対策委員会」を中心にいじめの早期発見に努め、解決できた。 生徒アンケート「清掃活動など丁寧に言い、校内美化に努めている」の回答85.7% 生徒自ら安心・安全な環境をつくる態度を育成することができた。 道徳推進教員のアドバイザーや養護教諭による全学年「生命の安全教育」の実施、校長講話など「心の教育」「人権について考える教育」を推進できた。 	<p>○</p>
<p>社会的自立心の確立</p>	<p>「挨拶する」「ルール・マナーを守る」「生徒会や委員会・係活動、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」と生徒の80%以上が回答。</p>	<p>日常的なルール・マナーの凡事徹底。「校則について」「委員会活動」など生徒会を中心に生徒が主体的に考え、企画し、運営できる生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「挨拶を率先して行っている」89.7% 「遅刻せず、時間やルールを守り生活している」89.8% 生徒アンケート「生徒会活動や委員会活動、係活動に意欲的に取り組んだ」の回答85.6% 	<p>十二中キャリア教育4つの「基礎的汎用能力」の視点の下、全教育活動の中で社会的自立心を高める力を育成することができた。</p>	<p>◎</p>

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上と信頼される学校作り			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
教師の指導力向上と信頼される学校作り	保護者アンケートで、80%以上が「子どもを十二中に入れてよかったと思う」と答える。	保護者アンケート 91%			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の指導力の向上	「教え方や学び方、教材の工夫をしている」「分かりやすい授業をしている」「生徒の悩みや不安などに耳を傾けている」「生徒の将来を考えて指導している」と80%以上の生徒が答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会を実施し、「ICTの効果的な活用」「考え、学び合い、話し合い、発表する」授業実践をテーマに研修し、授業力向上を目指す。授業観察を年3回行う。 ・二者面談、三者面談を効果的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「先生は教え方や学び方、教材の工夫をしている」 91.4% ・「ICTや生徒用タブレットをよく活用している」 93.3%、 ・授業でペアやグループワーク活動で自分の考えを深めることができた」 85.6% ・「生徒の悩みや不安などに耳を傾けている」 77% ・「生徒の将来を考えて指導している」 82.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール推進研究校として校内研修会を年3回実施したことにより、「ICTの効果的な活用」「考え、学び合い、話し合い、発表する」授業実践は深まった。 ・「自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えている」78.5%より深い学びにつながる工夫が必要である。 	○
保護者、開かれた学校づくり協議会と協働した信頼される学校作り	「生徒は進んで地域の行事やボランティア活動に参加している」、「学校からの情報はわかりやすい」「毎回読んでいる」と保護者の80%が回答する。	<ul style="list-style-type: none"> PTA・開かれた学校づくり協議会と定期的に会議をもち、学校と保護者・地域との連携を図る。 各種たより・H&Sで定期的に情報を発信する。保護者会、学校公開、三者面談を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「生徒は進んで地域域の行事やボランティア活動に参加している」 35.2%、 ・保護者アンケート「学校からの情報はわかりやすい」「毎回読んでいる」 89.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運動会、PTA主催清掃活動などには100名近くの生徒が参加。 ・PTA運営委員会(年3回)、開かれた学校づくり協議会(年4回)定期的に開催することができた。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

<成果>

GIGA スクール推進校として、研究主題を「ICTを活用した主体的・協働的に学ぶ生徒を育成するための授業改善」とし、年3回の校内研修と1月研究発表に向けて、ICT 推薦委員を中心に全教員が研究授業を実施することができた。ICT の効果的な活用方法について教員グループで教え合い、学び合いを実施しながら授業改善に臨むことができた。生徒アンケートでは、「生徒用タブレットをよく活用している」93.3%、「協働的な学びにおいて自分の考えを深めることができた」85.6%と肯定的な回答が得られた。5教科10分の朝学習と放課後補充教室（JUT）を組み合わせ、朝学習確認テストで合格できなかった生徒の再テストを数回実施し、合格率を上げた。また、家庭学習をノート以外にAIドリルを活用した結果、月平均500問以上と活用率が上がった。

<課題及び解決の方向性>

区学力調査は昨年度より通過率は5.2ポイント上がったが、「授業後の振り返り」「授業中の挙手や発言」「家庭学習時間」「計画的な学習」などの項目が低い数値となっている。朝学習確認テスト、単元、小テストなどで合格率を上げるための繰り返しの学習やAIドリルの活用により、基礎基本の定着は欠かせない。来年度もGIGA スクール推進校として取り組んできたICTの活用については、さらに効果的な活用を追究し「授業後の振り返り」を重視しながら学習の定着が深い学びにつながるよう、小中で連携して引き続き授業改善を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

令和7年度は運動会、学芸発表会、校内作品展、修学旅行、魚沼自然教室、職場体験、校外学習など、学校・学年行事が全て無事に実施できました。また、PTA主催清掃ボランティア活動には近隣小学校の参加もあり、生徒会を中心に多くの生徒が参加者できたことは大きな成果でした。当日はオヤジの会の協力の下、焼きそばを提供していただき感謝申し上げます。地域主催の運動会ボランティアにも積極的に参加する生徒が増えました。令和7年度はGIGA スクール推進校としての取り組みが学校生活全体の主体的・協働的な学びにつながったと生徒アンケートからも確認できました。来年度はさらに深い学びを追求し、今年度の取り組みを発展させ、自己肯定感と社会に参画する力を育成して参ります。保護者の皆様には保護者会や三者面談、学校公開、各種たより、H&S、ホームページなどを通して学校の様子をお伝えしてきました。今後とも保護者や地域の皆様に信頼される学校づくりを目指して、教職員一同研鑽を積んで参ります。

(3) その他（学校教育活動全般について）

生徒アンケート学校生活について「楽しく安心して学校生活を送っている」88.1%、「SWPBSを意識して自ら行動しようを実行した」74.1%、「生徒会活動や委員会・係活動に意欲的に取り組んだ」85.6%、「みんなで学び合い、高め合っていく十二中生のスローガンを実行している」77.9%と昨年度よりポイントは上がり、ポジティブに行動する場面が増えました。例えば生徒総会での意見交換や生徒会朝礼での委員長からの発表では、取組みの成果が見える形で評価する方策が提案されています。これは生徒達がよりよい十二中をつくっていかうとする意気込みが感じられます。また、生徒達の集会等で「聴く姿勢」はとても良く、授業態度や学校行事に取り組む姿勢に表れています。今年度は学校行事において縦割り集団を意識した活動が功を奏し、3年生の姿から下級生も向上心をもって取り組む姿勢が多く見られました。また、SSRの開設、男子テニス部、体力づくり部（ダンス、陸上、球技）の増設により、多様な学びと活気ある学校を実現しつつあります。開かれた学校づくり協議会による3年生の面接練習、外部講師による防災教育「あだち防災プロジェクト」や「租税教室」、養護教諭による「生命の安全教育」などの実施により、社会的に自立する力の向上につながりました。今後も今日的課題に向き合い、教職員一同、特色ある学校を目指していきます。